

「大学生海外インターンシップ支援事業」に参加した学生の報告会

大学生海外インターンシップ支援事業として、県内企業の海外事業所でインターンシップを経験した長野県内の学生6名が12月14日、中島副知事に成果報告をするため、長野県庁を訪れました。

県庁を訪れたのは、(株)都筑製作所のインドネシア事業所で参加した信州大学3年の木下恭輔さん、(株)デリカのタイ事業所で参加した清泉女学院短期大学1年の井原蒼さん、トピーファスナー工業(株)のベトナム事業所で参加した長野大学3年の和田達也さん、(株)南信精機製作所の中国事業所で参加した信州大学4年の塩原佐和子さん、同社ベトナム事業所で参加した清泉女学院短期大学2年の山崎柚佳さん、(株)ユウワのベトナム事業所で参加した信州大学大学院1年の望月結花さんの6名です。



本事業は、県内高等教育機関の魅力の向上及び、学生が海外へ目を向け活躍の場を求める機運を醸成してグローバル人材の育成を図るため、産学官で連携して昨年度から始めた事業で、今年度は17名（信州大学14名、長野大学1名、清泉女学院短期大学2名）の学生が、9企業10事業所5カ国で、8月～9月にインターンシップを実施しました。

今回報告に訪れた6名の学生がお世話になった5企業以外にも、エムケー精工(株)のベトナム事業所、NiKKi Fron(株)のタイ事業所、野村ユニソン(株)の台湾事業所、(株)ミマキエンジニアリングの台湾事業所でも学生を受け入れて頂きました。

学生は、応募した動機や成長したことなどを副知事に報告し、副知事からもそれぞれの学生に質問するなど、活発に意見交換が行われました。

副知事から、今回の体験での長野県企業の印象について聞かれ、学生からは「部品の検査がマイクロオーダーだったことに驚いた」とか「長野県は内向きな人が多いと思い込んでいたが、グローバルな考えを持っていることに気付いた」などの話が出ました。



また就職先を決めるポイントについて、学生から「提案から検査まで一貫してできる仕事をしたい」、「皆で頑張れて笑顔のある職場で働きたい」、「東京で働くことを考えていたが、長野も良いなと考え始めた」などの意見が出ました。中には「私はお世話になった企業の採用試験を絶対に受けます！」と受入企業に嬉しい意見もありました。

本事業に対しても「周りに体験談を話したら、自分も行きたい、来年は応募したい、との声は何人もあった。来年も再来年も継続して欲しい。」との意見を頂きました。

最後に、中島副知事から「長野県には良い企業が沢山あると理解して頂けたと思う。是非、周りにも発信して下さい。」と学生に話し、記念撮影をして報告会を終了しました。